

福岡県立大学 援助力養成プログラム
 ひとにやさしい介護技術講座アンケート集計
 回収 29名/30名中
 2019年3月2日 9:45~16:00

看護学科 4年7名、3年8名、2年10名、1年1名、
 人間形成学科2年3名、社会福祉学科1年1名

受講者からの感想

1	今までは、抱えることが必ず必要だと思っていましたが、今回の体験で動きの方向性を明確にすることが大切だとわかりました。これからは、骨を意識して介助していきます。
2	身体の使い方、環境、コミュニケーションの3つの要素でやさしい介助につなげるために、時間、空間、力を相手に合わせて動かすことでよりスムーズに体が動き、お互いが楽になることを学んだ。骨と筋肉はレールでつながっているの、つながりを意識して力をかけてあげるとよいことがわかった。新しい発見ができてよかった。
3	授業で学習したことの他に、どのような介助方法があるのかを学ぶことができました。また、枕の使い方ひとつで、身体を動かしやすくなったり、動きが制限されたりするという事を身をもって体験できて驚きました。これから実習もあるので、今回学んだことを活かして、やさしいケアを実践してみたいと思います。
4	力を掛ける部位を徐々に変えることで、自分も患者さんも無理なく起きあがれることがわかった。円運動のようなことが必要であるとわかった。
5	普段は無意識に行っている寝返りや起き上がり等をする際に使っている筋肉や骨について考え、どうしたら介助する方もされる方も快適に動かせるかについて学べて良かった。個々に合った空間や時間、力などを組み合わせる骨に添うように体位変換することがコツだと学んだ。実習の時に実践したり、友人に伝えたりしたいと思う。ありがとうございました。わかりやすかったです!!
6	これまで何となく体を動かしていたが、骨や筋肉の役割を意識したり、力の使い方を考えることでお互いが楽に関われると感じた。色々なパターンを試すことでその違いが明確になり、体験しているため、理解がとて深まった。
7	看護の授業で習ったことが全てではないということに気づかされました。体位変換や歩行の介助などで骨に注目して、骨に力を入れるように動いてもらうと楽だということを感じることができました。これからの実習では、患者さんと自分自身の身体を考慮して、その患者さんに一番合った方法で介助できるよう努めます。今日はありがとうございました。
8	今日の体験会で、今までの授業で聞いたことも無かったこと、授業で少し触れただけでは知りえなかったことを多く、楽しく体験できました。
9	今までは、相手にも自分にも負担がかかっている、空間とか、力の方向とか考えずにやっていたのだと感じました。コミュニケーションとか身体の使い方とか、環境を調整することで、やさしいケアができるということが、体験を通してわかりました。今まで習ったやり方とは全く異なっていて、とても面白く新たな発見をすることができました。
10	空間の使い方、重心の位置を変えただけで体の動かし方が変わり、スムーズに(お互いが)行えることが学べ、とても勉強になりました。
11	実習で車イス移乗などの介助を行ったが、本当は患者さんんはやりにくさを感じていたかもしれないと振り返る機会になってよかった。

12	これまでの実習や授業で習った看護のケアとは異なる方法での介助を今日学ぶことができました。自分、相手にとっても安楽な方法を新たに知ることができたので、今後に活かしていきたいです。
13	正直、理解するのが難しい事が多々ありました。1限目のイスから立ち上がる動作を学ぶ時、介護者がどの位置にいたらよいのかなかなかつかめませんでした。患者さんにとれる距離をつかむには、関係性も関わると思った。方向を伝えるのがコミュニケーションというのは、どのようなことなのか私には理解できなかった。自分の勉強不足だと思うので勉強したい。
14	介助者や患者さん、両者が最も負担の少ない介助を行えるポイントを学ぶことができました！
15	何気なく使っている身体の仕組みや骨や筋肉の仕組みが少しわかった！今後の実習に活かそうです。
16	体の動きを感じながら動くという事が普段ないので、骨のルールに沿って力を伝えていくという動作がとても斬新で面白かったです。看護学部に分れての体験だったので、最初の不安は(技術的な部分も)大きかったです。とても分かりやすく、最後まで楽しむことができました。これから自分の生活や学んでる分野にも生かしていけたらと思います。
17	4年間の学生生活で知ることのなかった技術を学ぶことができました。看護や介護の現場ではないけれど、今日の技術を活かしていきたいと思った。
18	看護の授業だけでは習うことが出来ない、身体の使い方を学ぶことができて良かった。肘等を使うことで、患者さんや看護師側のしやすさが変わるという事が最も印象的だった。
19	授業や教科書で学んだ骨や筋肉について、自分や相手の身体を触って今までよりイメージすることができました。これからの実習に活かしていきたいです。自分が患者を経験して、柵を使って端座位になるきつさを知りました。
20	介助をしたことはありませんでしたが、ひとにやさしい介助から学べたことはよかったですと思っています。実際に介助されることで、一生懸命にすることだけでなく、負担の少ない介助とは何かを学ぶことが出来ました。
21	看護での学びとは違い、骨格や筋肉を使った体の動かし方を学ぶことができました。仰臥位からの座位の方法には感動しました。
22	自分の力や患者の力を使わずとも、骨の重さを上手くのせることによってスムーズに介助ができ、とても良い技術が得られたと思いました。自分にも患者にも負担の少ない、とてもひとにやさしい介護技術だなあと感じました。今日習った技術を、是非今後の活動や実習に活かしていきたいです。
23	介護技術を行う人、行われる人、両方が互いにやさしいケアを行うためのコツ等を学ぶことができました。コミュニケーションでは、固有覚や五感を大事に使う事、力の方向や空間、時間へ配慮すること、骨や筋肉を理解し、「骨のルール」にそって重さが流れる事、枕の厚さ、長さ、向き、形を変えること、等を組み合わせながら支援へ活かすことで、よりやさしいケアへつなげられるということを知ることができました。今後の看護実習に活かしていきたいです。
24	今日、講座を受ける前の動作は、自分も苦しいと感じていたのですが、講座を受けてからは、相手も自分も苦痛を感じずスムーズにできました。座らせるという動作も、腰を支えてあげるだけで移動できることに驚きました。今日学んだことを実習などに活かしていきたいです。

25	抱えようとするのではなく、患者さんがもつ力を最大限に活かし動く方向へと誘導することで、患者さんも看護側も楽に動けることを学んだ。そのためには、環境を整える事、コミュニケーションをとることが大切だと思った。
26	本日の体験を通して、介助される人の力を十分に引き出して介助を行うことについて学ぶことができました。私は肩こりがひどく、介護体験などをすると翌日は肩がとてこるのですが、本日は余分な力を使わずに介助できたので、肩が全くこりませんでした。また、固有覚によるコミュニケーションがとても印象的でした。見た目では緊張していることはわからないけれど、触れることで緊張が伝わるということから、タッチングの力を学びました。
27	今まで授業等で習ったこともありましたが、改めて考える良い機会になったと思います。介助する時には、自分にも相手にもやさしい介助を考えて心がけていきたいです。また、その人の状況に合わせてコミュニケーションのやり方や環境の整え方が変えられるようによく観察し、コミュニケーションを通して理解していきたいです。
28	看護の人が多くて、アウェーな感じだったので初めはとても不安でしたが、色々な体験は貴重なもので、役に立つ知識ばかりでした。この経験を活かす場面がいつ来るかは分からないけれど、必要なとき使えるように、覚えておきたいです。相手(患者さん)に必要なやさしい介助とは何かを考える重要性が分かりました。
29	自分の体のしくみや動きの様子を改めて知ることができて、とてもためになりました。介助される側の体験もすることもできて、力がどのように流れているのか体感することができました。上手く力が流れた時の感覚はふわっとした感じで感じることはできたのは貴重で、今後役立てていけそうに思いました。自分の専門とは直接関わらないのかもしれないけれど、日常生活でも役立てられそうなので今後も興味、関心をもって学んでいきたいです。ありがとうございました。
<p>講師 福岡ひとにやさしい介助を考える会 海尾 美年子氏 (PT) 福岡ひとにやさしい介助を考える会 松村 美幸氏 (OT)</p> <p>会場 福岡県立大学地域在宅実習室</p> <p>主催 福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター 特定非営利活動法人 NPO福祉用具ネット</p>	